

P-253 ホルモン補充療法ならびにシンバスタチン併用療法のリポ蛋白電気泳動に及ぼす影響

国立金沢病院

加藤恵一, 丹後正紘, 石川博士, 瀬戸俊夫, 長柄一夫

【目的】動脈硬化症の進展や虚血性心疾患の発症に低比重リポ蛋白 (LDL) が関知しているのは周知のことである。また血清脂質値のみでは正常と判定される中に心筋梗塞発症例が認められ何らかの脂質代謝異常の存在が推測される。そこで閉経後の婦人にホルモン補充療法 (HRT) あるいは HRT とシンバスタチンの併用療法を行い、LDL の形状にどのような影響を及ぼしているか PAG 電気泳動法によって検討した。

【方法】自然閉経例130例に HRT として結合型エストロゲン (0.625mg/day) と酢酸メドロキシプロゲステロン (2.5mg/day) の併用連日投与を行った。さらに HRT3ヵ月後に総コレステロール値が220mg/dl 以上の群に HRT とシンバスタチン (5mg/day) の併用を行った。HRT 開始時および開始後3, 6ヶ月目に血清脂質検査と PAG 電気泳動法による LDL の形状を見た。正常パターン Symmetry (S) と、移動度の遅い酸化 LDL の存在による Asymmetry (A), その量の増加した Nodular (N), さらに Disrupted (D) の4型に分類した。

【成績】LDL の形状分類において、HRT 単独投与群88例中、治療前の S 型と A 型は63例 (71.6%) であったが、3ヵ月後には73例 (83.0%), 6ヵ月後には76例 (86.4%) となった。また HRT 後併用療法に切り替えた群42例中、治療前の S 型と A 型23例 (54.8%) であったが、3ヵ月後には31例 (73.8%), 6ヵ月後には34例 (81.0%) となった。各群ともに治療前、3ヵ月後、6ヵ月後を比較すると有意に改善したが、両群間における改善度に有意差は認められなかった。

【結論】酸化 LDL をはじめとした動脈硬化励起リポ蛋白の異常パターンは HRT によって改善されたが、シンバスタチンは LDL の形状には直接影響しないことが示された。

P-254 ホルモン補充療法における脂質代謝と高感度 C-反応性蛋白 (hsCRP) 値の変動に関する検討獨協医大¹, 同越谷病院²大石 曜¹, 望月善子¹, 大津礼子¹, 大藏健義², 稲葉憲之¹

【目的】ホルモン補充療法 (HRT) が脂質代謝を改善させることはよく知られている。近年、動脈硬化の軽微な炎症をとらえる高感度 CRP 定量法 (hsCRP) が開発され虚血性心疾患の危険予測因子として注目されている。そこで今回我々は HRT における血清 hsCRP 値の変化および血清脂質値との関連について検討した。

【方法】更年期障害、卵巣摘出術後に HRT を施行開始している82名 (年齢: 50.4±0.7歳) を対象とした。HRT の方法により A 群: 結合型エストロゲン+酢酸メドロキシプロゲステロン併用 (n=47), B 群: 結合型エストロゲン経口単独 (n=10), C 群: 17-β エストラジオール経皮単独 (n=25) の3群に分類し、それぞれ HRT 開始前、開始6ヶ月、12ヶ月後の血清 hsCRP 値及び血清脂質値 (TC, TG, HDL, LDL, Lp (a)) を測定した。血清 hsCRP 値の測定は『N-ラテックス CRPII』(デイドベering社) を用いた。

【成績】(1) HRT 開始前の血清 hsCRP 値、血清脂質値は3群間で有意差は認めなかった。(2) 血清 hsCRP 値と TC, TG, HDL, LDL 値の間には相関関係は認められなかったが、血清 Lp (a) 値とは正の相関関係を認めた。(3) 3群とも HRT 開始後6ヶ月毎に TC, LDL 値は減少し、HDL 値は増加することを確認したが、血清 hsCRP 値は B 群で開始6ヶ月後及び12ヶ月後に有意な増加を認め、A 群では12ヵ月後に増加傾向を示した。C 群では有意な変動は認められなかった。

【結論】HRT により血清 hsCRP 値は変動することが明らかになったが、その変動は HRT の方法により異なることが示された。

P-255 ERT (エストロゲン補充療法) 施行中の血清トリグリセライド値の上昇に及ぼす関連因子についての検討

山形県立河北病院

木原香織, 川越 淳, 平山寿雄, 小宮雄一, 小田隆晴

【目的】最近、血清トリグリセライド (TG) 値の増加が動脈硬化のリスクファクターとして注目されてきている。経口剤投与の ERT 中には、しばしば TG 値の上昇が認められる。そこで本研究では ERT 施行中の血清 TG 値とその変動に及ぼす因子についての関連を検討した。

【方法】当院の中老年外来において両側卵巣摘除後に ERT (CEE0.625mg/日) を4年間以上継続中の90名の婦人を対象とした。これらの症例について、卵摘から ERT 開始迄の期間、治療前の BMI, 治療前・中・後の血清脂質、血中エストラジオール (E2), FSH, LH, 体重を調べ、分散分析にて検討した。

【成績】ERT 施行前の平均 TG 値は113.0±42.8mg/dl であるのに対し、施行後2年後は149.1±73.8mg/dl, 4年後は147.3±66.8mg/dl と有意に上昇 (共に p<0.0001) した。施行前の平均体重は54.1±6.2kg であり、施行後4年後は56.2±6.9kg と有意に上昇 (p<0.05) した。施行前の TG 値と BMI には有意の正の相関 (y=9.2x-101.9, p<0.0001), 施行後4年後の TG 値と血中 E2 値の間にも有意の正の相関 (y=0.73x+85.3, p<0.0001) が認められた。施行前の TG 値と卵摘から ERT 開始迄の期間、施行後の TG 値と体重増加率、FSH, LH, また施行前の BMI と施行中の E2 値には有意な相関は認められなかった。

【結論】経口剤投与の ERT 療法は、血中 TG 値を有意に長期間上昇させる。施行前に BMI の高い婦人は TG 基礎値が高いので、施行中 TG 値の増加には注意すべきであり、乳癌などの副作用の点からも施行中の E2 濃度を考慮すべきであることが示唆された。